

## 秋の里山・新治市民の森を歩く～「みどり税を活用している樹林地の調査」

開催日時： 平成 25 年 11 月 9 日(土)10:00～12:30

視察場所： 新治市民の森(緑区新治町・三保町) 集合場所:JR 横浜線 十日市場駅

主催・事務局： 横浜市環境創造局政策課(横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局)

目的： この調査は、横浜みどりアップ計画市民推進会議の委員が、横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)の事業が活用されている現場を調査し、現場で活動されている方などの声を直接聞くために実施されている。一般市民の参加者も募集しているため、自然・環境部会より5名(福島、飯塚、加茂、小杉、福田)がこれに応募、参加した。

スケジュール： 10:00 集合・出発→ 新治市民の森散策→ にいはる里山交流センター  
12:00 意見交換、質疑応答 12:30 自由解散

参加者： 調査を主催する市民推進会議の委員(5名)と公募による一般市民(約20名)。  
環境創造局職員(事務局)、北部公園緑地事務所及びにいはる里山交流センター職員  
参加者は全部で35名ほどであった。

本視察、1～7回目までは市民推進会議の委員だけで実施していたが、昨年度「みどり税を活用している現場を巡る」という題目のもと、希望する一般市民も一緒に参加することになった。市民参加が始まってからの1回目(H24年8月)は夏の水田調査「田奈(青葉区)の水田を歩く」、2回目(H24年10月)は秋の樹林地調査「新橋市民の森(泉区新橋町)」、3回目(H25年8月)は夏の舞岡ふるさと村を歩く(戸塚区舞岡町)4回目(H25年11月)が今回の秋の里山「新治市民の森(緑区新治町)を歩く」になる。

十日市場駅前に集合、配布資料をもらい、徒歩で新治市民の森へ。駅前の賑わいを抜けるとURと横浜市営の大型団地が広がっており、その中を駅より10分ほど歩いて階段を下りると新治市民の森の入口の緑が広がっていた。そこで北部公園緑地事務所の職員が合流。新治市民の森の簡単な説明を受け、森の保全や管理の状況などの話を聞きながら、「にいはる里山交流センター」までの道を約1時間、里山の中を歩いた。



(北部公園緑地事務所職員(保全管理の専門家)の話は勉強になり有益であった)



## 新治市民の森」の概要

・面積 67ha(横浜の市民の森のなかでは1番広い →寺家は12ha) 開園平成12年

(1) 北部公園緑地事務所より以下の説明があった。

### ■横浜市における森づくりの取り組み

・昭和46年より独自に「市民の森」制度を創設。緑地の保全と創造に取り組んできた。平成21年度からは「みどりアップ計画」を開始、以前は「量(面)」の確保に重点を置いていたが、「みどり税」により管理費が確保できたことにより、最近は「質」を高める取り組みを進めている。

取り組みの背景 → ・多様化する市民・社会的ニーズへの対応

・森づくりへの市民参加の増加 など。

・横浜市の森づくりの基本的な考え方 → 森が持つ「魅力」「機能」を整理した。

・生物多様性の保全、・良好な景観の形成、・環境教育や生活文化(伝統)の伝承など。

これらを踏まえ、「次世代につなぐ横浜の森づくり」を基本方針としてすすめる。

### ■今年度の横浜市の森づくりボランティア支援

各種の講座や講習、道具の貸出し、アドバイザーの派遣などを行っている。

(2)「ウエルカムセンター」の整備、活動について、

公園緑地事務所及び「にいほる里山交流センター」管理事務所 吉武さんの話を聞く。



(吉武さんは以前寺家ふるさと村に勤務していた)

1. 位置づけ: ウエルカムセンターは横浜みどりアップ計画の樹林地施策の中で、市民が市民の森等に気軽に立ち寄り、森の散策やイベント情報を発信するなどして市民が森を利用しやすい環境をつくる施設として位置づけられている。
2. 役割: (1) 森の情報提供: 森の生き物、安全な散策利用のための情報を収集・発信  
(2) 普及啓発と環境教育: 森を知り、楽しむための講座や観察会などの開催  
(3) 休憩や避難場所: 森の利用で休憩に訪れやすい施設、荒天時の避難場所
3. 配置: 新治の他、寺家(四季の家)、舞岡(虹の家)など、計5か所に整備

(3) 新治市民の森 愛護会について

新治には、市民の森愛護会の他、水辺愛護会、旧奥津邸実行委員会など多くのボランティアグループが活発に活動しており、活動メンバーは200名を超えるとのこと。

地主農家より、チラシ・ポスティングなどで集まった一般市民(30~40代やシニア世代)が多く、イベントなどを通じて若い人達を増やす努力をしているとのこと。

(運営管理上の問題) 集まった人達の目的やバックグラウンドがバラバラのため、調整・コントロールに苦労している。

\* 参加して感じたこと:

- ・みどり税(横浜みどりアップ計画)により、緑の保全事業が広く推進されている
- ・新治は寺家と比べ、行政や愛護会の手が多く入っており、貴重な動植物も含め調査保護管理されている  
→ 舞岡と同じく公園(新治里山公園)が併設されているので、公園として行政が整備できるのが寺家との違い

\* 意見交換・質疑応答 (以下主な質問の内容)

- (Q1) ボランティア団体 200名以上の管理はどのようにおこなっているのか?
- (Q2) 今日の調査参加者もそうだが、自然保護活動は年寄りが多い。若者を取り込む活動は?
- (Q3) 市民の森の維持管理には愛護会等のボランティアの活動が必要であり大事。新治の愛護会のメンバー構成は? 地主(農家)や若い世代の人達は入っているのか? 運営上の問題は?



(ウエルカムセンター内では地元農家の野菜直売が行われていた)

\* 一般市民参加の意見交換会が終了し、一般市民散会后、市民推進会議委員と事務局による意見交換会が行われ、その場で以下のやりとりがあった。(以下記録: 福田)

1. 求める「みどり」の違いと市内の各区での事情

山梨県の山奥育ちの男性(農業)は樹林地の保護がなにより

森のない中区、西区には人工の森をつくってはどうか

ある女性は学校の芝生化やビオトープ、校地内の樹木の伐採に反対、自然のままが良い

市職員から: みどりUPで学校の芝生化や屋上・壁面の緑化ができるようになる

横浜市全域からみどり税を受け取っている

児童にみどり税の大切さを教えるにも、近くに農地がない小学校は困難がある

2. みどりUPのPRについて

電車の吊り広告を出しては?

→ 現在東日本旅客を除く私鉄各社の好意で車内広告を出している

委員から: 相鉄の駅のPRボードは横浜市の依頼があれば無料で使える

以上